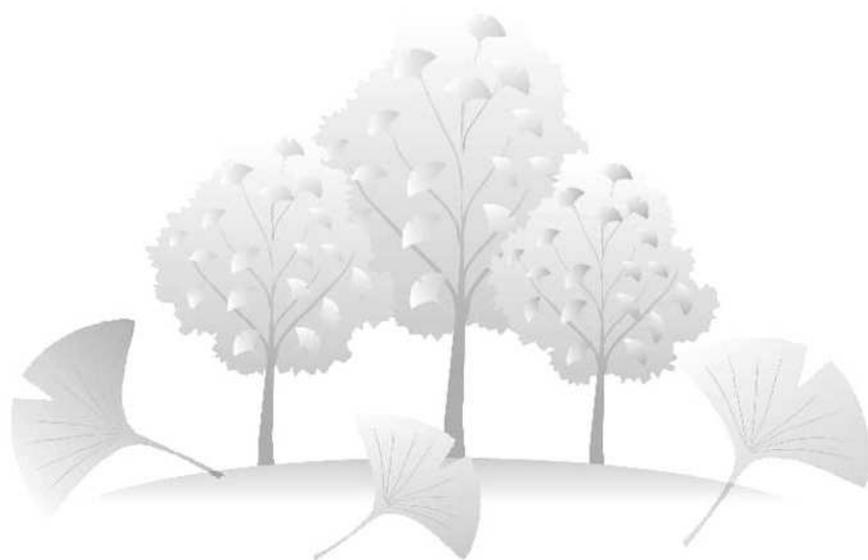
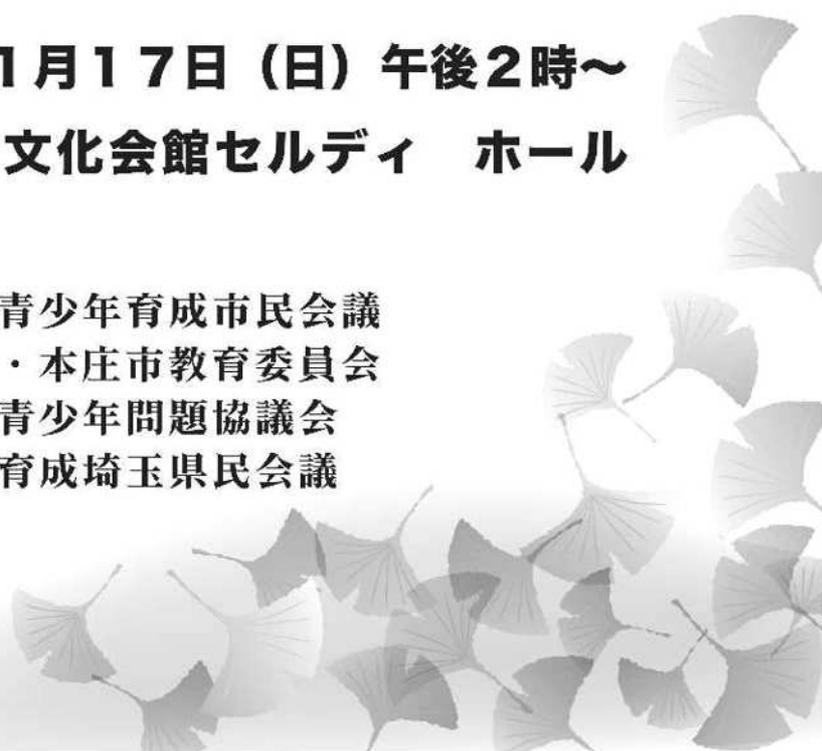


# 令和6年度 本庄市青少年健全育成のつどい



**日時：令和6年11月17日（日）午後2時～**  
**会場：本庄市児玉文化会館セルディ ホール**

**主催：本庄市青少年育成市民会議**  
**後援：本庄市・本庄市教育委員会**  
**本庄市青少年問題協議会**  
**青少年育成埼玉県民会議**





# 次 第

## 1) 開会のことば

2) 主催者あいさつ …………… 本庄市青少年育成市民会議 会長 芦澤 吉一

3) 来賓祝辞 …………… 本庄市長 吉田 信解  
本庄市議会議長 榎田 平一郎  
本庄市教育委員会教育長 下野戸 陽子  
埼玉県議会議長 齊藤 邦明  
埼玉県議会議員 飯塚 俊彦

## 4) 青少年の主張発表（発表順）

- ・ I want to be a …………… 本庄東高等学校附属中学校2年 梅野 滯
- ・ 幸せについて…………… 本庄東高等学校附属中学校2年 梅澤 愛莉
- ・ すべての人に満足な食事を…………… 本庄第一中学校2年 島村 優希
- ・ 私が考える「言葉」…………… 本庄第一中学校2年 藤牧 叶
- ・ 地方の過疎化にできること…………… 本庄東中学校2年 板井 和
- ・ 感謝の形…………… 本庄東中学校3年 佐々木 梨乃
- ・ 尊い命…………… 本庄西中学校2年 浅賀 怜真
- ・ 「夢」をいなく …………… 本庄西中学校2年 岩田 彩那
- ・ 自分に正直に生きる…………… 本庄南中学校3年 飯田 あかり
- ・ 選択肢を「広げる」ために…………… 本庄南中学校2年 佐藤 さら
- ・ 将来を考える…………… 児玉中学校3年 森川 結妃
- ・ 人の命を救いたい…………… 児玉中学校3年 木村 幸太郎

5) 講評 …………… 本庄市青少年育成市民会議 会長 芦澤 吉一

## 6) 表彰式

- ・ 青少年の主張発表者
- ・ 青少年健全育成標語入賞者
- ・ 青少年育成者等功労表彰

## 7) 閉会のことば



# ごあいさつ

## 本庄市青少年育成市民会議

会長 芦澤 吉一

茶の花が可憐に咲き誇る季節となりました。

皆様方におかれましては、日頃より青少年育成活動にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。

この「つどい」を主催いたします本庄市青少年育成市民会議は、青少年の健全育成にご尽力されている関係団体で組織しており、青少年育成埼玉県民会議に所属し、内閣府や文部科学省などの情報を得て事業の推進を図っています。

青少年たちは、社会や経済、文化の影響を受けながら、デジタル時代にはたくさんの情報に囲まれ、サイバー空間でのリスクや心の健康、孤立感、教育の違いといった問題に直面しています。こうした問題に対処するためには、しっかりとした教育や指導者によるサポート、正しい情報の提供がとても大切です。また、自分自身をよく知り、人とのコミュニケーション力を高めていくこと、心身ともに健康でいられるような支援が必要です。そして、社会の中でのつながりや、他者への思いやりを育てることも欠かせません。

青少年が安心して成長できる環境を整えるには、家庭や学校、地域、社会が連携することが重要です。青少年には自己成長と夢の追求を大切にしてほしいと願い、私たちはその成功と幸福を支えるため、共に努力しましょう。本庄市青少年育成市民会議は、青少年が元気に笑顔で夢を実現し、ふるさとを愛しながら世界で活躍できるようサポートし、未来を切り拓く環境づくりに尽力しています。

本日の「つどい」での青少年の主張発表は、自己成長と自己認識を高める意義深い活動です。発表者は自分の考えを整理し、表現することで成長し、公の場で自信を築きます。また、多くの人々に青少年への理解を深めてもらい、健全育成を推進する契機となります。この発表は市内にある中学校6校の生徒によって行われます。

次に、青少年健全育成標語には市内小・中学校から2,663点の応募があり、厳正な審査の結果、最優秀作品と優秀作品が選ばれました。どの作品も大変素晴らしいものでした。

また、長年にわたり青少年育成に尽力された方々や団体を表彰いたします。地域の関係者の皆様には、今後も変わらぬご指導をお願い申し上げます。

最後になりましたが、日頃より本庄市青少年育成市民会議にご理解ご協力を賜っております皆様にご感謝を申し上げ、あいさつといたします。

# 青少年の主張発表会

青少年の非行やいじめが大きな社会問題として論議されていますが、青少年が大人の社会をどのように見ているか、将来に対してどのような夢を抱いているかを知る機会は意外に少ないものです。

大人が、子どもの目を通した率直な意見に耳を傾け、家庭教育や地域の教育力の向上に資することを目的に、青少年の主張発表会を開催します。



# I want to be a

本庄東高等学校附属中学校2年

うめの みお  
梅野 滯



「私は地質研究者になる。」

そう言ったのはおよそ半年前。地学好きの私は地学に熱心でした。

ところで、将来の夢は何年先のことなのでしょう。すぐにはかなえてしまう人もいれば、じっくり近づいたり、ずっとなやんでいる人もいるでしょう。けれども、夢が「かなわなかった」場合は人生で最大の後悔になります。人生最大の後悔とはどのような場面なのでしょう。例えば、「何もやってこなかったから夢をつかみそこねた」場合などです。勉強も練習も努力すらしてこなかった人も努力してきた人と共に夢をかなえようとしています。努力をした人からすると、とても気分が悪いです。努力をしていない本人からすると、「夢をつかみそこねた」当時は涙の一滴も出なかったと思います。それは当たり前でプライドがなかったからです。むしろ、永遠にヘラヘラと笑い、現実逃避しているかもしれません。一番だめなのは、そこから学ばず、努力しないことだと考えます。例えば、試験などの合否結果を見て絶望だけし、「まあ、いつか。」とか「もっとレベル下げようかな。」と思ってしまうことです。努力をしてきた人なら「悔しい。」「次受かってみせる。」と思えるはずです。そういう人こそ夢は夢自身から近づいてくると考えています。そこで、「まあ、いつか。」と思ったAさんと「悔しい。」と思ったBさんの差を過去と未来で比べてみます。Aさんは受験前、「なんとなく」夢を決めたのでしょう。そして不合格と分かり、なにも感じずに「なんとなく」レベルを下げ、大人になっていったと考えられます。大人のAさんは「なんとなく」が癖として身につき、うまく行く人生だとは思えません。逆にBさんの受験前は「堅実に」志望校を決め、「堅実に」勉強し、緊張と共に本番を迎えたのでしょう。自分を生かせる仕事に就き「堅実さ」を認められたと考えました。つまり、過去の失

敗は未来の癖となって現れてしまうのです。その失敗はだれにでもありますが、大人になってからでは遅いのです。だからこそ、夢をかかえている今が大チャンスだと考えています。また、物事に対する思いによって結果や今後が変わると感じています。では、Aさんが人生を最高にするためにはどうしたらいいでしょう。それは10年後20年後の自分を想像することです。Aさんの面白くない人生をAさん自身が想像することで「変わりたい」と思うはずですが、そしてここからが大切で、その気持ちを必ず声に出すことが成功への近道です。さきほど、物事への思いも大切と言ったように、ここが発揮のときです。「あなたには無理。」と言ってくる人もいるかもしれません。そこであきらめてしまったらもつと格好わるいです。自分が目指す大切な夢なのだからあきらめなくていいのです。そして、「なんとなく」やっていたことをじっくりと反省すれば、一つ一つ「堅実に」遂げられる人になるはずですが。

このように、「私になりたいこと」を発信することにより、「絶対やってやる」といまままでにない強い意志が芽生えてきます。難しいことにもチャレンジしようと思ひ、いつしかそれが楽しく思えてきます。そこからは「堅実に」行動することが癖となり、社会でも思い通りに力を出せ、認めてもらえます。人生で大きな事をあきらめてしまうのはもったいないです。未来を動かせる今だからこそ、あきらめず前へ進むべきです。また、天才は何もしなくても天才かもしれません。しかし、その天才に勝てたなら、大きな自信となります。それを得るためには目標を人に伝え、それを努力につなげることが大切だと、私は思っています。最後に、私は地学に熱心であることを生かし、「堅実に」将来を考え、「堅実に」学び、社会に出て「堅実さ」を認めてもらえる立派な大人になるため努力していきます。



## 幸せについて

本庄東高等学校附属中学校2年

うめざわ あいり  
梅澤 愛莉



私はよく日常の中で「幸せ」という言葉を口にします。自分でもなぜこの言葉をつい言ってしまうのか不思議ですが、いつもよく考えずにその時の感情を表してしまう人なんでしょう。そこで、今日は「幸せ」についてよく考えていこうと思い、この題名にしました。

さて、「幸せ」って自分でもすごく好きな言葉ですが一人一人にとって「幸せ」と思える瞬間は誰にでもあり、私のように多い人や少ない人など様々だと思います。こんな風の一つのことを考えていても人それぞれ、幸せのもたらす要因が違うのでとてもおもしろいですよね。だからこそ、この世の中にはたくさんの「幸せ」というものがあるんでしょう。

私の考える「幸せ」の要因は二つあります。一つ目は感情です。これは嬉しい時や楽しい時などの私の心のことといえるでしょう。誰もがもったことのある「幸せ」であり、一番身近でたくさんあるものだと思っています。実際、私は毎日この感情によって「幸せだな」と思っています。もちろん、大人になると仕事や育児など大変なことが増えてこういう感情が段々と薄れてきてしまうこともあるかもしれません。そういう時はきつとみんなが通る人生の中の暗い部分かもしれません。でも、そんな時こそ些細な幸せが、すごく大きくなって自分の中の「やる気」というものにつながると思います。私にも1年ぐらい前にそんな出来事がありました。あることに悩み、「どうすればいいんだろう」と頭の中は疑問と不安でいっぱい、すごく怖かったです。今思えば、もっと周りにいる人達とコミュニケーションをとってればよかった。私一人が抱え込むべきではなかったと思っています。そんな時に大好きなオムライスが夕飯に出てすごく幸せな気分になりました。いつもなら絶対に味わうことのできなかつた「幸せ」なので、抱えていた問題が解決した時、達成感を

得ることができました。私はまだ子どもなので、大人の大変さというものがわかりません。ですが、体を壊してしまうまで仕事をするのはよくないと思います。そんな時は、誰かに助けてもらう、そんな世の中になり、「幸せ」が増えればいいなと私は思っています。

そして幸せの要因の二つ目は、「助け合い」です。ですが、ただ助け合うことだけで幸せになることはないと思います。もちろん、それもあると思いますが、重要なのはそこに込められた思いだと私は考えました。つまり、助け合いの精神です。心の底から助け合う相手の想う気持ちには、特別な幸せがあると思います。例えば、クラスでグループの発表や合唱コンクールなど、学校には他人と協力し合う行事があります。そういう場面での幸せといったら、仲間と協力し合う助け合いの精神です。誰かが困っていたら助け、自分が困っていたら相手に頼る。そういうことが日常でも行われ、世界にまで行き渡ったらみんなが幸せな日々を過ごすことができますね。私には好きな言葉があり、それは「情けは人の為ならず」という言葉です。意味は、人に親切にすれば、相手のためになるだけではなく、やがてよい報いとなって自分にもどってくるということです。だから、私は誰かが困っていたら助けるというのを人生の目標に掲げています。

私が思う、二つの幸せについて考えてみました。はじめに言ったとおりに、幸せはその人の感情や優しさなど様々だと思えます。ですが、「助け合いの精神」というのはこれからのあなたの人生、そして未来にもかかせないものです。だからこそ、これからもたくさん助け、また助けられましょう。そうすることで笑顔が増えていき、明るい道や未来になると私は思っています。



# すべての人に 満足な食事を

本庄第一中学校2年

しまむら ゆき  
島村 優希



何気なく見た動画サイトで、10歳にも満たないような子どもがカカオ畑で働いたドキュメント映像を見ました。学校にも行く時間がなく、家族で長時間労働をして生計を立てていました。その少年はとてもやせていて、着ている服は汚れていました。歯だけが白くて一目見て貧しい生活を送っているのだろうと容易に想像がつかしました。私はとても衝撃を受けました。この少年が背負っているカカオからできるものはチョコレートです。私はチョコレートが好きでよく口にします。でも私が口に作るチョコレートはこのように子どもが悲惨な状況の中で働いて作った原料から出来たものでした。好きなものを好きなだけ食べられる私と、そんな私の口に入るものを安い賃金で働いて作る少年。世界は平等ではないとはよく聞くけれど、この溝を少しでも埋めることはできないのでしょうか。

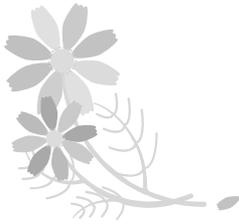
この衝撃的な映像は、フードロスについて立ち止まって考えるよい機会になりました。フードロスというのは、生産、消費の間で、食べられるのに廃棄されてしまう食品のことです。自分たちが食べる分だけの食べ物を作り、無駄をなくせばこのような児童労働が少なくなるのではないかと考えて調べてみました。今現在、世界全体で年間13億トン、日本では年間646万トンのフードロスがあります。日本では、一人あたり51キロの食料を無駄にしているというのです。私はこの事実に驚きましたが、自分の行動を振り返ってみると、私の周りでも食品を無駄にしていることがたくさんありました。安いからと大量に購入した商品を冷蔵庫に入れておいて、賞味期限が切れていたので捨ててしまったこともあります。また「今日はこれを食べる気分ではないから」「お腹いっぱいだから」と家の人にせっかく作ってもらったおかずを残してしまったこともありました。また、近所の

畑には、まだ食べられる野菜が大量に山となって捨てられていました。2月の節分の日スーパーマーケットにいくと、恵方巻がたくさん売れ残っていました。恵方巻は節分の日限定なので、次の日にはもう処分されてしまうのだろうと思いました。賞味期限が遅いものから食品を購入する人が多いというニュースを聞いたことがあります。こんなことが積み重なって日本は年間646万トンの廃棄食品を生んでしまうのでしょうか。

今すぐにできること、時間をかければできることがまだまだたくさんあります。野菜は見た目にこだわりすぎないこと、スーパーマーケットでは賞味期限が近いものから購入すること。そして、自分自身も好き嫌いやわがままで食べ残しをしないこと。日本古来の「もったいない」精神をいつも心に留めておくこと。

この気持ちをいつも忘れずにいたいです。いつか児童労働がなくなるために。そして、いつか世界中の子どもが一人残らず学校に通えて満身に食事をとることができる環境にするために。





# 私が考える「言葉」

本庄第一中学校2年

ふじまき かなう  
藤牧 叶



「ペンが剣よりも強し」、言論の力は政治権力や軍隊などの武力よりも民衆に大きな影響を与えることのたとえとしてよく知られていることわざです。言葉には武力よりも大きな、誰かの気持ちを動かすことができる力があることを伝えていて、とても良い言葉だと思います。ですが、言葉が武器になり人を傷つけていることもあると思います。

私たちは、もちろん毎日言葉を使っています。言葉によって自分の気持ちを伝え、人とのつながりを深めています。近年では、インターネットやSNSなどのソーシャルメディアが急速に発達し、相手の顔が見えない遠いところからでも会話をすることができるようになってきました。しかし、毎日言葉を使い、発信することに慣れていくがゆえに、言葉遣いが荒くなったり相手が傷つくような言葉を発したりすることが増えていないでしょうか。

最近、誹謗中傷という言葉が聞くことが増えていませんか。令和3年度の誹謗中傷の被害相談件数は11年前の平成22年度に比べて約5倍に増えているそうです。ネット上で知らなかった人とつながって会話ができることは嬉しく楽しいことだと思います。でも、ネット上では表情が見えないため、相手の気持ちや感情が分かりづらく、つい言葉に熱がこもったり言い方がきつくなったりしてしまいがちです。さらに、ネット上では匿名が使えるので、誰が投稿したのかが分かりづらく罪悪感も少なくなります。誹謗中傷の被害にあってしまった人は、感情や感覚が麻痺し、体調面にまで反応が現れるなど心身に大きなダメージを受け、自ら命を絶とうとしてしまう人もいます。私は、誹謗中傷の被害が多い理由は、インターネットで誰でも手軽に自分の考えを発信できるからだだと思います。

言葉が武器になるのはネット上だけではなくありません。普段の会話は、インターネットよりも早く、簡単に言葉を発することができます。普段の会話の中でも、言葉は人を傷つける武器になります。「うざい」だとか「バカ」だとか、友達にふざけて冗談で言ったつもりでも、この短いたった一言で相手の心は簡単に傷つきます。何でも話せるような親しい友達になると言葉への気遣いは少なくなりがちです。けれど、親しいからこそ相手にかける言葉は明るいものであるべきです。

はじめに書いたように、言葉は武器になり人を傷つけることがあります。でも、私たちが優しく慰め、前向きな気持ちにしてくれる力を持っています。私たち全員が、自分の周りにいる人たちに悲しくなるような冷たい言葉ではなく、その人を元気づけられる温かい言葉をかけられるようになることが大切だと思います。言葉は大きな力を持っていて、使い方一つが変わるだけで、人の心は良い方にも悪い方にも変えることができます。だから、一人でも多くの人に言葉を大切に使う意識をしてほしい。一人一人の意識が変わることで社会はもっと明るくなれる。そう信じています。



# 地方の過疎化に できること

本庄東中学校 2年

いたい のどか  
板井 和



みなさんは、地方の過疎化や高齢社会についてどう考えていますか。私は最近、それらについての考え方が変わりました。

まず、考え方が変わったきっかけについて話します。私はこの前、青森に住む祖父母のもとをおとずれました。青森県では高齢化や人口減少がとても進んでしまっています。毎年青森県をおとずれるたびに、それらがより顕著に感じられてきていると思います。私がそう感じた理由は二つあります。

一つ目は、毎年青森をおとずれる度に廃業してしまった店が増えていることです。個人経営のお店だけでなく、銀行や、コンビニ等の生活に欠かせないお店まで無くなってしまっていました。生活には無くてはならないようなお店が無くなってしまうと、より不便になってしまい過疎化が進んでしまうと思います。

二つ目は、ガソリンスタンドが少なく、行くのに時間がかかることです。祖父母の家の近くにはガソリンスタンドが無く、40分以上かかります。また、大きなスーパーマーケットなども無いので、車はとても大切です。その燃料のために40分もかかるので、祖母はとても不便だと言っていました。また、バスやタクシーなどは市街地を外れるとほぼ走っていないため、公共交通機関も使いにくいです。車を運転できないような高齢の方にはもっと不便だと思いました。

しかし、良い方向に変わった部分もあります。それは、コンビニができたことです。コンビニでは日常生活に必要な日用品がそろうので、私の祖父母や近所の方々も喜んでいました。

私は、コンビニや銀行、郵便局など生活に欠かせない企業には、地域貢献を目的としてさらに地方に出店してほしいと思います。実際に行われていますが、まだ足りていないのが現状です。そうすれば、高齢化は止められなくとも過疎化は改善していけると思います。

そして、地方の過疎化や高齢社会を改善させるにはその地に住んでいる人自身が行動を起こす必要があると考えます。例えば、その地域特有の文化を再発見し、若い人が地元へ愛着を持ちつづけられるようにすることです。若い人と地域に住む人々が交流することで、それぞれの価値観や経験を共有し、それぞれの世代の良さを生かし合えると思います。

国は、地方の課題について対策を練っていますが、統計だけでは分からないことも沢山あります。しっかりと実情を調査してほしいと思います。

これらのように、企業や国などの外からのアプローチとその地域に住む人々の内からのアプローチを合わせることで、より良い未来を作ることができるのかもしれないと考えました。

私は今まで、過疎化などの社会の課題は自分にはどこか遠いのもだと思っていました。しかし、今回、現状を自分の目で見て、自ら調べることで、決して遠いものではなく、身近で重大な課題であることを再認識することができました。

今回、私は地方の過疎化と高齢社会についてとても深く考えることができました。私が例として出した青森県よりも過疎化や高齢化が進んでいる場所があるかもしれません。私はこれから日本の地方についての課題を調べてみたいと思います。

日本の土地の半分以上が過疎化地域となり、高齢社会となった今、素晴らしい文化が数多く残る地方が廃れてしまうことこそ、日本にとって大きな損失となってしまいうでしょう。だからこそ、国や企業、一人一人が地域のことを知り、課題の解決に向かうべきではないでしょうか。



## 感謝の形

本庄東中学校 3年

さ さ き り の  
佐々木 梨乃



「感謝」、それはありがたいと思う気持ちを表すことです。私には今、そんな感謝をした  
い人がたくさんいます。

私はこの夏、当時中学1年の時に出会った剣道部を引退しました。振り返れば、本当に  
数え切れない程の思い出がよみがえります。先輩たちに憧れて入部した1年の春から引退  
した今年の夏まで、酸いも甘いもたくさんのかんことを噛み分けてきました。女子部員の人数  
が少なかった私の学校では、初めて臨んだ試合からレギュラーで出ることが珍しくありま  
せんでした。最初の頃は、勝つことはおろか引き分けにすることすらできていませんで  
した。そんな中でも先輩や先生は、試合の結果ではなく、私自身がどんな試合をしていたか  
についてのアドバイスやほめ言葉をかけ続けてくれました。すぐに結果のでなかった私が  
めげずに挑戦し続けられたのは支えてくれた先輩のおかげです。

そんな先輩も引退し、いざ自分が「先輩」になった日。同じ学年の女子がいなかった私  
にはとても大きな不安もありました。中学で始めた私には剣道経験が全くなく、大会や練  
習試合に行っても良いところを全く見せられていませんでした。また、新しく入った後輩  
には経験者の子もいて、自分の情けない姿に劣等感を抱くことも少なくはありませんで  
した。ですが、チーム全員で「県大会」という目標をかかげ、稽古に励むうちにそれは仲間  
への信頼へと変化していったように感じます。みんながいるから大丈夫。私は自分の好き  
な剣道をやるんだ。そう思いながら、毎回試合に臨んでいました。自分の剣道を好きにな  
れたのは、信じて付いてきてくれた仲間のおかげです。

私はこの約2年半、正直、きついと思ったことや嫌だと思った回数の方がはるかに多かったと思います。ですが今年の夏、念願の男女ともに県大会出場という目標を叶えた今なら確信を持って言うことができます。こんなにも何かに一生懸命になって取り組んだことは無かった。「一生懸命」ってこんなに楽しいんだ。心からそう感じています。私がこんなにも剣道に没頭することができていたのは当たり前ではない。たくさんの人たちが私たちに思い、この素晴らしい環境が作りあげられていたこと。そこに重みを感じなければいけないなど、改めて実感します。忙しい中でも週末の度に休みの時間を割いて送迎やお弁当の準備をしてくれた家族には本当に感謝しています。そして誰よりも私の成長を助け、時に見守ってくれた顧問である先生。私はあんなにも生徒と真剣に向き合う先生を見たことがありません。その記憶はもうきっと塗り替えられることはないでしょう。落ち込んでいる時、切り替えの言葉をくれるのはいつも先生でした。

「これは梨乃のチームだ。」

大会の前、先生は私にこの言葉をよく言いました。結果はあとから付いてくる。そうわかっている目目の前に思い切って立ち向かえない時があります。そんな時、一人じゃないと気づかせてくれたのも先生でした。自信がない時、前を向かせてくれたのは先生が寄り添ってくれたおかげです。

「感謝」って難しい。気持ちを表すって、さらに難しかったりする。言葉にするのは難しいかもしれません。だからこそ、私はさらに強くなりたい。大切な人のためにもっと頑張りたいと思えます。「感謝」の形は一つではありません。私は節目を大切に、日々の感謝をしっかりと伝えられるようになりたいです。



## 尊い命

本庄西中学校 2年

あさが 浅賀  
りょうま 怜真



2011年3月、みなさんはこれを聞いて何を思い出しますか。この月はあの東日本大震災の起こった月です。実は、2011年3月は私の生まれた月でもあります。私の住んでいる場所は震源近くのような大きな被害があったわけではありませんが、母は私を産む時に大変不安を感じていたようです。なぜかという、私の住む地域では震災の影響で電力不足になり計画停電が行われていたそうです。計画停電とは、3時間程度地域によって停電をさせ、少ない電力の供給を行うことです。母は帝王切開術での出産のため電気を使った機器が使用されます。手術中に計画停電が行われてしまうと命の危険があるため、予定通りに出産が出来るのか、その後どうなるのかという不安を感じていたと聞かされました。大変な状況の中、自分の出産が行われていたことを知り驚きと感謝の気持ちでいっぱいになりました。毎年自分の誕生日が来るたび耳にするニュースが東日本大震災です。大きくなるにつれ震災のことを知る機会が増え、関心を持つようになりました。震災のことについてももっと知りたいと思っていたちょうどその頃、祖父に被災地である石巻市にある大川小学校に行ってみないかと誘われました。私は震災のことをあまり知らないまま行くことにしました。自宅からは遠いため宿泊も兼ねていたもので、初めは家族と泊まりに行けるとうきうきした気持ちでいたのを覚えています。自宅を出て4時間くらいだったでしょうか、宮城県に着きました。道路はいろいろなところで工事をしている、住宅もほとんどありません。店や建物もプレハブのような仮の場所も多く見られ、私の住んでいる町の様子とは全然違っていました。しばらく行くと大川小学校に到着しました。そこはコンクリートがむき出しになり、外から丸見えで渡り廊下が地面に崩れ落ちていました。教室があったら

しい場所も天井がはがれ、黒板だけが壁に残されているだけでした。想像ですが大きな津波に一瞬で学校の中のものが消されてしまったような光景でした。その光景を見た瞬間、言葉を失うと共に家を出て来た時のうきうきした気持ちでいた自分が恥ずかしいと思いました。ここで自分と同じくらいの子供たちが勉強して、いつもと同じように学校が終わって家に帰るはずだったのです。だがしかし、あの一瞬の出来事でたくさんの人達の命が奪われてしまったのだと考えると、心がずんと重くなりました。

私にとってこの体験が命について深く考えるきっかけとなりました。自分が生まれた年に自然災害によって多くの尊い命が奪われた、2011年3月という数字に何か縁を感じました。普段何気なく生活し生きていることを当たり前と思っていますが、それは大変素晴らしいことで勉強や部活、友達と遊ぶことなど、冒頭でも話した母がどんな思いで自分を産んでくれたのか、感謝の気持ちを常に持たなくては行けないと強く感じました。

私の夢は救急救命士です。被災地を訪れたことで、改めて命について真剣に考えるようになり、人を助ける仕事に就きたいと強く思うようになりました。最近では自然災害も多く、日本でも多くの被害が出ています。テレビで救急救命士の方々の活躍を目にすることが多くなり、自分も誰かのために役に立ちたい、一人でも多くの命を救いたいと改めて思うようになりました。救急救命士は、最前線で命を繋ぐ大変重要な仕事であると思います。事故や災害があった時に、いち早く駆けつけ負傷者の人達に寄り添い、医師に命のリレーをつなげていくところに魅力を感じています。私の暮らすこの日本を、地域を住みやすくする社会をつくるため、私は必ず救急救命士になります。私は命を未来へつなぎます。



## 「夢」をいadak

本庄西中学校2年

いわた あやな  
岩田 彩那



「夢」。それは誰もが抱いた事のあるものだろう。憧れる職業や望んでいる将来、人それぞれ思い浮かべる事は違うと思う。思い浮かべる事が違うからこそ「夢」を抱くという事は簡単で、それでいて難しい事だと感じる。

私にも夢がある。それは医療関係の仕事に就く事だ。医療関係といっても医師、看護師、薬剤師など様々だ。医療に携わるという事は必然的に人の命を預かるという意味にもなる。人の病気は誰もが同じ場所にできて、同じ症状で、同じ治療法という訳ではない。だからこそ少しのミスで患者の将来が大きく変わってしまう可能性だってある。それでも私は医療関係の仕事に就きたいと思う。何故、そこまでこの夢にこだわるのか。それは、小さい頃から私の身近に医療というものがあったからだ。私の母が医療従事者という事や祖父母が病気を患い、長期間にわたって治療を受けていた事、私が小学3年生の時、脱水症状と低血糖の症状が出てしまい入院した事など自分自身も医療と大きく関わっていてとても身近なものだったからだ。

しかし、医療というものは命を預かるという事であるためとても難しい。医師になろうとすると、医科大学や大学の医学部で6年間学び、医師国家試験に合格しなければならない。合格した後、2年間の臨床研修を終えなければ一人前の医師にはなれない。看護師の場合も四年制大学や三年制の短期大学、専門学校を卒業し、看護師国家試験に合格する必要がある。どちらにしても大量の知識、時間が必要になる。それに加え、臨床研修では実際に患者さんや医師、看護師の方々と接する事も多くなり、人間関係を築き上げるという事もでてくる。そうしていくうちに、仕事がうまくいかなかったり、人間関係に亀裂が生

じたり、他人から否定的な言葉を言われてしまったりという事が原因で挫折してしまう人もいると思う。

だが、挫折して、夢を諦めてしまおうと思う事は決して悪い事ではないと思う。ただ、やる前から諦めてしまうというのでは意味合いが変わってくる。自分が出来る事を出来るところまでやって、それでも夢を叶えられそうにない。だったら夢を変えて、また1から始めようとするならば私は悪い事ではないと思う。たとえ、必死に追ってきた夢でも自分に合わなかったり、つまらないと思うのなら新しい夢をまた追いかける方が良いと思う。夢を諦めても、今まで積み上げてきた知識や経験は無駄になる事なんて一つも無い。夢に向かって歩んできたその時間が一番大切で、一番輝いていると私は思う。どんな夢、どんな目標であっても叶える事はそう簡単ではない。でも、それに向かってただ真っ直ぐに進んでいく事が最も早く夢にたどりつく方法だと思う。私もまだはっきりとした夢は決まっていない。でも、自分の気持ちを大切にたとえ夢を壊されたとしても何度でも作りなおして、ただただ真っ直ぐに進んで夢をつかみたいと心から思う。



# 自分に正直に生きる

本庄南中学校3年

いいだ  
飯田 あかり



私が人生の中で最も大切にしていることは、「自分に正直に生きる」ことです。これは、私の母が言っていた言葉で、私の座右の銘です。私が「自分に正直に生きる」ことを大切にしている理由は二つあります。

一つ目は、チャンスを逃したくないからです。自分が挑戦できるチャンスはいつでもあるわけではない、貴重なものです。やりたいと思っていたのに、ためらってしまい、他の人にとられてしまっただけでは意味がありません。「みんながやっていないから。」とためらう人もいますが、挑戦し、自分が成長できるチャンスを逃してしまうのは非常にもったいないことです。大事なチャンスを逃さないために、「自分に正直」に行動することが必要だと思います。

二つ目は、一度きりの人生で我慢をしたくないからです。私は一度きりの人生で後悔したくありません。なので、先程の「チャンスを逃さない」ことにもつながりますが、自分がやりたいことをやり、言いたいことを言う、ということ大切にしたいと思っています。我慢しなくてもよかったことを我慢してしまうことで、自分ができたかもしれないことを自分でできなくしてしまう可能性があります。「やっておけばよかった。」「言っておけばよかった。」と思っても、その時にはもう遅い場合がほとんどです。このように、我慢をしてしまうことは、自分の成長を妨げてしまうのです。

私は、これら二つの理由から、「自分に正直に生きる」ことを大切にしてきました。また、この考え方に基づき、中学校3年間で様々な挑戦をしました。合唱祭で指揮者をしたこと、英語弁論大会に出場したこと、生徒会本部役員に立候補したこと。私がやりたいと思った

ことは全てできていると感じています。

しかし、私は全てを我慢していないわけではありません。時には、自分の主張を抑えなければならない場合もあります。した方がよい我慢や、成長につながる我慢もあると思います。また、私がやりたいことをやっているのは、決して私の力だけではありません。支えてくれる両親やサポートしてくださる学校の先生方の存在があるおかげです。

「自分に正直」になることは、挑戦するきっかけになるだけでなく、自分の考えを素直に伝えることにもつながると考えます。自分の意見を率直に伝えることで、相手と自分の間での考えの食い違いを防ぐことができ、互いのためにもなります。また、急速にグローバル化が進む現代社会で、他人の意見に流されることなく自分の考えを主張していくことは大切だと考えます。さらに、これから将来を担っていく私たちには「みんながやっていないこと」に踏み出す力も必要だと考えます。

人生100年時代と言いますが、大人になると1年は早く感じると聞きます。そうなれば、100年はあっという間でしょう。人生をどう生きるかはそれぞれの自由ですが、私は、おばあさんになった時に「やりきった。人生に悔いはない。」と自信を持って言える人生を送りたいです。そのために、「自分に正直に生きる」ことを続け、さらに新しいことに挑戦し、未だに発見できていない自分と出会っていきたいです。

私は、みなさんが「自分に正直に生きる」ことや自分自身に向き合うことができたなら良いなと思います。私のこの話が、少しでもみなさんの心に残り、みなさんの人生をより良くするきっかけとなれば嬉しいです。



# 選択肢を 「広げる」ために

本庄南中学校2年

さとう  
佐藤 さら



みなさんは、男子校・女子校の共学化についてどう思いますか。埼玉県では、昨年8月に県教育委員会に、早期に共学化が実現されるべきと勧告されてから、話し合いが行われてきました。そして、今年8月に、主体的に共学化を進めていく方向にまとめられました。

しかし、私は、全ての高校を男女共学化してしまうことに反対です。なぜなら、男女別学校は、異性がいることで自分らしさを出すのが難しい人達や、異性がない環境で学校生活を送りたい人達の大切な選択肢の一つだからです。実際に、男女別学校に通っている高校生から、「のびのびと過ごすことができる」「異性が多いからという理由で部活や係に抵抗感を持つことがなくなる」という声もあります。共学化してしまうと、その選択肢は奪われてしまいます。また、別学校が共学校になることで、校風が変わってしまい、志望校選びが困難になる可能性もあると考えます。

一方で、共学化賛成の理由として、「男女差別や多様性の面から考えると不適切だから」「社会に出たら男女共に行動しなければならないから」という内容のものが多くあります。しかし、多様性の面では、様々な選択肢があった方がよいという考え方もできるのではないのでしょうか。また、異性との行動については、男女別学校の入学前や卒業後に経験する機会があります。さらに、男女別学校に進学するか共学校に進学するかは、これらのことも踏まえて自分たち自身で決めることです。したがって、男女共学の高校があることで男女差別や多様性の面で不適切であったり、社会に出てから困ったりするという事に直結するということはないのではないかと考えます。

しかし、進学したい学校に性別が理由で入学できないことも、確かに、選択肢がすでに奪われてしまっている状態であり、問題であると考えます。つまり、男女別学校を残すか、共学化するかは二択にしてしまうと、納得できない人がたくさん出てしまうことになるのです。そこで私は、この二択のどちらかを選ぶのではなく、どのようにしたら選択肢を広げることができるかを話し合うべきなのではないかと考えました。私立の学校のように、一つの学校の中に様々な雰囲気のクラスをつくるなど、新しい案を実現することができれば、より多くの人々が納得できる環境となり、たくさんの方の可能性を広げることができるのではないのでしょうか。

多様性を重んじるこの時代の中で、一人一人が自分らしく生きていけるように、私は、今ある選択肢を大切に、そしてさらに広げていくことができるように考えていこうと思います。みなさんも、一緒に考えてみませんか。



## 将来を考える

児玉中学校3年

もりかわ ゆい  
森川 結妃



私は、将来、助産師になって、生命の誕生の現場に立ち会いたいと思っています。助産師としての目標は二つあります。

一つ目は多くの人に命の大切さを伝えていくことです。二つ目はなるべく多くの命を預けてもらえるような存在になることです。

助産師になろうと思ったきっかけは、母の手術です。手術と聞かされた私は、不安でいっぱいでした。考えれば考えるほど嫌な予感がして、メールや電話を頻繁にしていました。母のために何かしたいと思ってもできない立場で、とても悔しい思いをしました。その気持ちがきっかけとなり、人の役に立ちたいと思うようになりました。

命の大切さを理解できていない人たちが、「死ね。」や「消えろ。」などの言葉を軽いノリで使います。非常に残念なことです。私はそのような言葉に苦しむ人を減らしたいと考えました。助産師になるとお産の手伝い、妊婦さんや新生児への保健指導、育児指導の他に学校で「いのちの授業」などの命の大切さを多くの人に伝えることができます。私は人に寄り添うことのできる職業にとっても魅力を感じました。

この職業には、妊婦さんや妊婦さんのご家族からの信頼が不可欠だと思います。なぜなら、出産からその後のこと全て、助産師の行動によって上手くいくかが決定するからです。私が母の手術に不安でいっぱいだった時のように、妊婦さんも周りの人たちも出産や育児に対して大きな不安を抱えている人がほとんどだと思います。だからこそ、「この人なら頼れるし、任せることができる。」と思ってもらえるような人柄やコミュニケーション能力を身につけたいと思いました。

しかし、私は小学生のころから人見知りで、友達や大人と話すことが大の苦手でした。そのため、思ったことをすぐに行うことができませんでした。小学生のころから緊張で体が縮こまってしまったり、声が小さくなってしまったりすることを直そうと努力しました。中学生になってもクラスメイトも学年にいる人数も増えてしまったことで、小学生のころの自分から変われずにいました。私の中では頑張ったつもりだったのですが、母にもずっと注意されていました。そんな状況でしたが、同じクラスで夢を全力で追いかけ、挑戦を惜しまない人を見て、同じような人間になりたいと思いました。

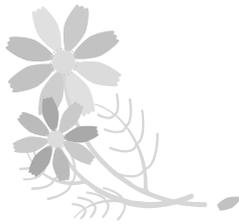
それからは、将来に向けていろいろな挑戦をしたり、今の自分に足りないところを自分で見つけて直そうと行動したりしています。具体的には、コミュニケーションをとるときに相手の立場になって考えながら発言や行動をするようにしました。工夫や言葉選びに気を使うと、常に頭を回転させている気分で、とても疲れます。道徳で習う「自分のことを客観視する」ということがとても困難なことだということも改めてわかりました。しかし今まで挑戦して成功できていなかった分、できるようになったことが増えて、挑戦することが楽しいと思えるようになりました。私も少しずつ成長できているのだと感じています。さらに今は受験に向けての勉強も厳しくなっています。私が成長できる一つの出来事なので、将来のために必死で努力したいです。

しかし、助産師になるためには高校へ合格し、その先の目標も見えていなければなりません。大学に合格し、知識を蓄え、資格を取得し、知識を生かした経験をする。目標に到達するたびに新たな目標を見つけることになります。きっと、目標がなくなるときはありませんし、近道もありません。一歩ずつ確実にできることを増やしていきたいと思っています。そのために、今大事にしていることの継続を何よりも大切にしていきたいです。そして、たくさんの経験を積んで、みんなから尊敬されるような大人になりたいです。





## 人の命を救いたい



児玉中学校3年

きむら こうたろう  
木村 幸太郎



皆さんは、将来の夢を持っていますか。

私の将来の夢は、医師になることです。私が小学生の頃は、漠然としていた夢も、中学生になって立志式という機会を通して確かなものへと変わりました。そんな夢を持ったきっかけは二つあります。

一つ目は、私が医師に救われたことです。私は、今年の6月頃に感染症にかかってしまいました。高熱などの症状が出て、すぐに病院に行きました。担当の医師から診察してもらったおかげで、今は元気になり、医師の重要性を実感しました。

体調が悪く、診察のときも辛い状態でしたが、医師のわかりやすい診察が印象に残っています。そのおかげで、気分も少し和らいだことを覚えています。医師は、同僚の方たちとの関係はもちろんですが、患者さんとの関わりが第一だと思うので、しっかりと人に寄り添える能力などを身に付けたいです。

二つ目は、5年程前に祖母が亡くなってしまったことです。私の祖母はがんの病気にかかり、生命が非常に危険な状態でした。そのような厳しい環境下でも、祖母は諦めず、必死に病気と闘ってくれました。

ある日の朝、家にいた祖父が私を焦ったように起こしました。何事だと思い、事情を聞き、急いで病院に向かいました。しかし、時は既に遅く、その状況を理解できなかった自分を今でも覚えています。また、感謝の気持ちを伝えられなかった悔しさも忘れません。

この世界にいる人の中で、このような辛い気持ちになる人が少しでも減らせれば良いなと思いました。そのため、私自身が医師という救う立場となり、一人でも多くの患者さん

を救えるようになりたいです。

さらに私は、医療ドラマが好きで、それを数多く観てきた中で、人の命を救うことは素晴らしいことであると感じました。そして、実際に自分の手で病気や怪我などで困っている人を救いたいと思ったということもあります。

しかし、私にはやるべきことを後回しにしてしまうという課題があります。この課題を改善するため、私は計画を事前に立てて、学習することに力を入れています。今では、自分の中の目標をしっかりと持ち、計画的に学習することができています。

これまで、たくさん勉強に励んできたことを通して、成績が上がるなどの、その成果が現れて良かったと思うことが多くあり、それにより何事にも有効的に時間を使えるようになりました。

また、学習に力を入れているときに、心が屈したこともあったけど、目標のために諦めず、それに耐えたことで、良い結果に繋がったので、どんなに苦しくても我慢できる力をさらに伸ばしていきたいです。

私の座右の銘は「<sup>かんなん</sup>艱難汝を玉にす」という言葉で、多くの困難を乗り越えてこそ大きく成長するという意味があります。

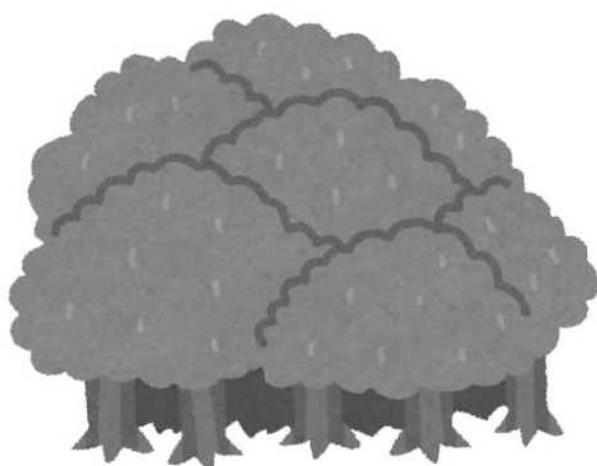
どんな困難にも立ち向かえる人になり、いかなる場面や状況においても、自分の力を最大限に発揮できる優れた人材となれるように頑張ります。

多くの人の命を救うことを目指して。



# 青少年健全育成標語 入賞作品

本庄市青少年育成市民会議が市内全小・中学校より青少年健全育成標語を募集したところ、今回は2,663点のご応募をいただきました。どの作品もすばらしいものでしたが、市民会議で厳正に審査した結果、次のように最優秀作品2点、優秀作品15点を決定させていただきました。たくさんのご応募ありがとうございました。



## 令和6年度 青少年健全育成標語入賞作品 (小学生の部)

### 最優秀作品

本庄南小学校 5年 あらい 新井 にこ 虹心

あいさつで 未来へつなぐ 笑顔の本庄

### 優秀作品

本庄東小学校 5年 まつもと 松本 ありす 愛莉珠

スマホより 今の自分に 目を向けて

本庄西小学校 5年 はなしろ 花城 めい

遊びでも 相手がいやなら いじめだよ

旭小学校 6年 もりた 森田 あいか 愛華

やめようよ 誹謗中傷 心の矢

中央小学校 5年 きたはし 北橋 かずま 和真

あなたの勇気 きっとだれかの 助けになる

中央小学校 6年 あいざわ 相澤 さくら

見捨てない その心こそ 救うかぎ

中央小学校 6年 おがわ 小川 りゅうと 琉音

たすける手 小さなぼくの手 大きな心

共和小学校 5年 でうし 出牛 みり 美凜

思いやり やさしい言葉 つなごうよ

※掲載順は、学校の建制順、学年順及び氏名順としています。

## 令和6年度 青少年健全育成標語入賞作品 (中学生の部)

### 最優秀作品

本庄南中学校 1年 しばはら 柴原 たくま 拓馬  
さしのべた あなたの笑顔で 救われる

### 優秀作品

本庄東中学校 2年 なかがき 中垣 はると 暖人  
便利でも 安全ではない インターネット

本庄東中学校 3年 こうやま 光山 りお 里桜  
気づこうよ 「大丈夫」にかくれた 心の叫び

本庄西中学校 2年 いづか 飯塚 あきと 章斗  
いじめをね やるのは三流 止めるの一流

本庄南中学校 1年 おおしま 大島 にこ 和心  
やってみよう 行動しないと 始まらない

本庄南中学校 2年 おんだ 恩田 のどか のどか  
顔上げて！ 君の居場所は 一つじゃない

本庄南中学校 3年 うちの 内野 りこ 梨子  
「こんにちは」 地域・学校・家庭をつなぐ  
魔法の言葉

本庄東高等学校附属中学校 3年 しのはら 篠原 ともみ 智海  
相談したい 言えないからこそ 気づいて欲しい

本庄第一中学校 1年 みねぎし 峯岸 そうた 颯大  
教室は 十人十色の 花畑

※掲載順は、学校の建制順、学年順及び氏名順としています。

# 青少年・青少年育成者等 功労表彰

青少年の健全育成に努め功績顕著な者、青少年のうち他の模範となる者、及び他の規範となる活動を継続的に行っている青少年団体等を表彰し、その実績を広く市民の皆様にご紹介いたします。



# 令和6年度 本庄市青少年育成市民会議 青少年・青少年育成者等功労表彰受賞者(団体)一覧

## ●青少年育成者の部

- ・松本 眞理子 (本庄地区保護司会 理事)

平成19年12月に保護司を委嘱され、以降今日まで本庄市内で活動している。保護司の活動を通じて、数多くの非行少年等の更生に寄与されており、平成29年度から同団体の理事として同団体の各種活動に貢献されている。さらに、本庄市更生保護女性会員としても活動されており、当該団体の各種活動を通じて、青少年の健全育成にも尽力されている。その功績は顕著であり、青少年の健全育成に貢献している。

- ・高橋 俊子 (元本庄市更生保護女性会 副会長)

昭和58年から本庄市更生保護女性会の会員であり、副会長として広報活動を積極的に行うなど、長年更生保護のために尽力された。その功績は顕著であり、青少年の健全育成に貢献している。

- ・齋藤 洋夫 (本庄中央サッカークラブスポーツ少年団 指導者)

本庄中央サッカークラブスポーツ少年団の指導者として、長年にわたり小学生へサッカーを指導している。平成26年に日本スポーツ少年団認定員指導者の資格を取得。令和3年度からは3年間、本庄ジュニアサッカー連盟事務局長として少年サッカーの普及及び育成に尽力した。その功績は顕著であり、青少年の健全育成に貢献している。

- ・竹中 克郎 (本庄北泉ジェッターズスポーツ少年団 役員・スタッフ)

平成27年に日本スポーツ少年団認定指導者を取得し、本庄北泉ジェッターズスポーツ少年団の指導者として長年軟式野球の指導にあたっている。また、本庄市スポーツ少年団の振興にも尽力しており、子どもたちの競技力の向上のみならず、あいさつや礼儀の大切さを教え、他者への尊重や思いやりの心を養うなど、その活動は青少年の健全育成に貢献している。

- ・手計 芳雄 (少林寺拳法本庄スポーツ少年団 指導員・本庄市スポーツ少年団本部 代議員)

少林寺拳法本庄スポーツ少年団の指導員として、長年にわたり小学生や中学生等へ少林寺拳法の指導を行っている。自身の修練、多年にわたる少林寺拳法の経験、意義及び拳技を用いて人づくり及び仲間づくりの活動に尽力した。その活動は青少年の健全育成に貢献している。

- ・佐久間 守 (本庄エンゼルススポーツ少年団 指導者)

本庄エンゼルススポーツ少年団の指導者として、11年の長きにわたり小学生へ野球の指導を行っている。野球を通じて子ども達の人間性や気遣いの心を育む努力をするだけでなく、団員の保護者とも関係を構築し、円滑な運営が出来るよう尽力している。その活動は、青少年の健全育成に貢献している。

- ・井手 啓介 (本庄エンゼルススポーツ少年団 公認審判員)

本庄エンゼルススポーツ少年団の公認審判員として、11年の長きにわたり小学生へ野球の指導を行っており、スポーツ少年団の理念と野球規則に基づき、ルールの大切さや人間性の大切さを伝えている。また、各大会などの試合を取り仕切り、競技中の安全面や円滑な進行に尽力している。その活動は、青少年の健全育成に貢献している。

- ・ しょうだ もとぎ 正田 元貴 (本庄リトルジャガーズスポーツ少年団 指導者・本庄市スポーツ少年団 監事)

本庄リトルジャガーズスポーツ少年団の監督として、長きにわたり小学生へ軟式野球の指導を行っている。平成27年度に日本スポーツ少年団認定員指導者の資格を取得。本庄市スポーツ少年団本部委員も務め、本庄市のスポーツ少年団の振興に尽力している。その功績は顕著であり、青少年の健全育成に貢献している。

## ●団体の部

- ・ 本庄地区保護司会 (昭和25年5月25日 設立)

保護司の活動支援を通じて、青少年を含む保護観察対象者等の更生に尽力している。また、毎年7月の「社会を明るくする運動強調月間」に開催される「更生保護や青少年の非行防止に関する啓発キャンペーン」事業にも所属する保護司全員が参加するなど積極的に協力しており、青少年の健全育成及び地域住民への啓発に貢献している。

- ・ 中央小PTA図書委員会ひなたぼっこ (平成26年4月1日 設立)

中央小学校において、10年の長きにわたり、児童への読み聞かせボランティアを行っている。毎月1回、朝8時15分から15分間、クラスに出向いて読み聞かせを行い、また、年度末に卒業を控えた6年生を対象に読み聞かせを実施している。本の魅力を伝えるとともに心豊かな子ども達をはぐくむため、学校と連携しながら活動を続け、青少年の健全育成に貢献している。

- ・ どんぐり (平成11年 設立)

本庄南小学校において、24年の長きにわたり、児童への読み聞かせボランティアを行っている。年間14回程度、月曜日の朝8時20分から15分間、クラスに出向いて読み聞かせを実施している。子ども達に有意義な時間を過ごしてもらうため、学校と連携しながら活動を続け、青少年の健全育成に貢献している。

なかもち

- ・ 仲町山車囃子保存会 (昭和60年4月)

長きにわたり、伝統ある仲町の祭囃子を代々引き継ぎ、文化の継承に尽力している。また、児玉小学校の3年生を対象に祭囃子の指導を継続して行っています。加えて、地域外の子どもたちにも指導を行っており、地域の伝統文化やその後継者を育成する活動を通じて青少年の健全育成に貢献している。

あらまち

- ・ 新町祭囃子保存会 (平成7年4月 設立)

平成7年の設立以来、長きにわたり新町の祭囃子の保存及び継承を指導し、文化と伝統の継承に尽力している。また、児玉小学校の3年生を対象に祭囃子の指導を継続して行っています。加えて、地域外の子どもたちにも指導を行っており、地域の伝統文化やその継承者を育成する活動を通じて青少年の健全育成に貢献している。

- ・ 本庄バレーボールクラブスポーツ少年団 (平成30年4月1日 設立)

誰もが自由にバレーボールを楽しめる環境を提供することを目的に平成30年に設立した後、スポーツ少年団の理念のもと、小学生から高校生までの団員に対して指導している。バレーボールを通じた地域貢献にも尽力しており、青少年の健全育成に貢献している。

## 令和6年度「少年の主張埼玉県大会」で1名受賞しました

「少年の主張埼玉県大会」は、埼玉県、埼玉県教育委員会、青少年育成埼玉県民会議等が主催し、昭和57年度から続いている歴史ある大会です。1次審査で小学生の部、中学生の部、高校・一般の部から5名ずつ選出し、2次審査で発表をします。2次審査では、各部門、最優秀賞1名、優秀賞1名、優良賞3名が決まり、中学生の部については11月に行われる全国大会に推薦されます。

令和6年8月18日 さいたま共済会館大ホールにて、令和6年度「少年の主張埼玉県大会」が開催されました。今年度の大会には、小学生の部1万7,143名、中学生の部1万5,189名、高校生・一般の部1,882名、合計3万4,214名の応募がありました。本庄市からは、早稲田大学本庄高等学院の伊東 玲偉 さんが出場し、自分の考えや思いをステージ上で堂々と発表しました。2次審査の結果は以下のとおりです。

### 優良賞（青少年育成埼玉県民会議会長賞）



早稲田大学本庄高等学院1年 伊東 玲偉 さん

「幸せをつくる」



## 本庄市青少年育成市民会議の活動のようす



▲青少年健全育成のつどい



▲非行防止パトロール



▲令和6年度総会

## 青少年育成埼玉県民会議にて表彰されました

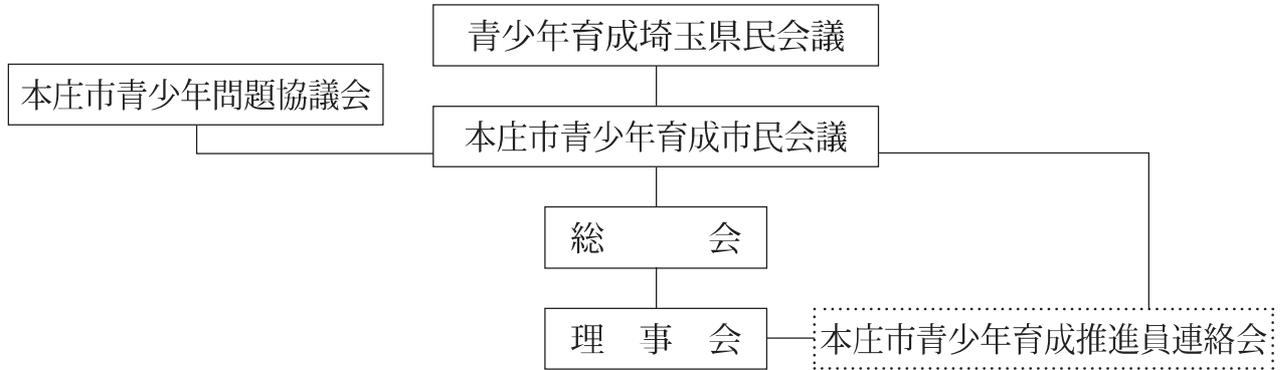
昨年、11月26日（日）に、知事公館大会議室にて「令和5年度青少年育成埼玉県民会議表彰式」が開催され、本庄市からは白本 直子 様が「青少年育成功労賞」を受賞されました。青少年育成功労賞は、青少年の健全育成に資する活動を長年にわたり行っている個人・団体に対する表彰です。

しらもと なをこ  
白本 直子 様

本庄市青少年育成市民会議副会長・理事として、市内中学生による作文発表や小中学生の青少年健全育成標語入賞者の表彰等を行う「青少年健全育成のつどい」や、よりよい親子関係を築くために実施する「親子名作映画劇場」等の当会議の事業に積極的に関わり、青少年健全育成のための活動に貢献されています。また、本庄市青少年育成推進員として、学校訪問や子供たちの見守り活動等を通じて、青少年の健全育成にご尽力されています。



# 本庄市青少年育成市民会議組織図



No.	団体名	評議員	理事
1	本庄市子ども会育成会連合会	2	1
2	本庄市スポーツ少年団	2	1
3	(公社)こだま青年会議所	2	1
4	本庄市民生委員・児童委員協議会(主任児童委員)	2	1
5	サラ本庄	2	1
6	本庄地区保護司会本庄支部	2	1
7	児玉地区保護司会児玉支部	2	1
8	本庄市更生保護女性会	2	1
9	本庄上里地区学校・PTA・警察連絡協議会	2	1
10	児玉郡南部地区学校・PTA・警察連絡協議会	2	1
11	熊谷人権擁護委員協議会本庄部会	2	1
12	本庄市自治会連合会	1	1
13	本庄ライオンズクラブ	2	1
14	本庄ロータリークラブ	2	1
15	本庄商工会議所	1	1
16	本庄市老人クラブ連合会	2	1
17	本庄市福祉事務所(地域福祉課)	2	0
18	本庄市青少年相談員協議会	1	1
19	本庄市青少年育成推進員連絡会	0	25
合計人数		33	42





毎月第3日曜日は  
「家庭の日」

## 毎月第3日曜日は「家庭の日」

家庭は、青少年を健全に育成するための最も重要な生活の基盤です。青少年育成埼玉県民会議では、家庭と家族一人ひとりが愛情と信頼で結ばれ、心のふれあいを図ることのできる場とするため、毎月第3日曜日を家庭の日と定めています。

本庄市青少年育成市民会議では、青少年の健全育成を目的として、家庭の日の普及を推進しています。また、各種青少年育成団体相互の連絡協調を図りながら、社会環境の浄化の推進及び青少年の健全育成活動を推進しています。